

第2回 武蔵野市中学校給食実施計画策定委員会 議事要録

- 日 時：平成19年10月19日（金） 午後3時30分から5時00分
- 会 場：市役所教育委員会室
- 出席委員：金子委員長 南條副委員長 佐々木委員 長野委員 白井委員 原委員
飯田委員 賞雅委員 戸田委員 島本委員 高橋委員
- 事務局：山上教育長 萱場教育企画課長 吉原統括指導主事 平岡給食課長
給食課 坂井、小山

1. 開 会

- (1) 第1回策定委員会の議事要録確認
- (2) 試行の実施について（事務局報告）

2. 議 題

- (1) 中学校給食実施計画の策定について

【委員長】 中学校給食の試行の実施について事務局より報告をお願いしたい。

【事務局】 中学校給食の実施に向けて具体的な課題を検証するというので、今回全中学校6校で実施する。目的は記載のとおりで、日程は、11月12日の第六中学校から12月13日の第三中学校までの実施になる。内容についても記載のとおりだが、今回は小学校と同じ献立で量だけを中学生の量として提供し、選択制で試行を行う。給食費については、牛乳の分を既にいただいていることから、今回は1食250円と定めた。

【委員】 試行の申し込みについてだが、事前にメニューがわからないと、アレルギーを持つ方は判断できないと思うがどうか。

【事務局】 この点については、中学校からも意見として出ているが、小学校の献立は前月の25日頃にできるため、今回の試行では申込後に献立が配布されることになる。ただ、アレルギーによって献立を見た後、改めて申し込みたい、あるいは弁当に変更したいということであれば、柔軟に対応したいと考えている。

昨日、中学校の給食担当の先生の会議があり、そこでもこの話が出たので、その旨を改めて伝えてある。

【委員】 この試行の検証結果はいつごろ出るのか。また、その結果について、この委員会で内容を見ることが出来るのか。

【事務局】 検証すべきことはいろいろあると思うが、これは学校作業部会の方で主に見

ていきたいと思っている。

内容については、選択制というような大きな部分については、次の委員会までの間に作業部会を開いて、そこで意見集約等したいと思っている。

ただ、実際にはもっと実務的な、例えば食器はこれでいいかとか、ワゴンの大きさだとか、校内で配膳をするときの問題、例えば段差がある学校等があるので、そういうところを一つ一つ見ていくことになると思う。

大きく決めるべきところは早めに検証するが、細かい部分については、いつまでということよりも、むしろ常にそういうことを念頭に置いて実施までに詰めていくという考え方でいる。

【委員長】 次に、議題に移りたい。

(1) 中学校給食の実施計画の策定について、各部会から報告が出ているので、事務局より説明願いたい。

【事務局】 作業部会で検討してきた内容について、順次報告する。

作業部会は、3つの部会を設けて検討を進めており、1つは施設部会、次が運営部会、もう1つが学校部会になる。

まず、施設部会から説明したい。

①の共同調理場の耐震補強工事については、来年の夏休みに耐震補強を両調理場で行うことで進めている。これは既に施設課に設計等を委ねているが、まだ最終的に決定していない状況だ。

来年の夏休み期間中に耐震補強工事を両調理場とも終わる予定で考えているが、これについても最終的には結果を待って、スケジュールの中に落とし込んでいくことになると思っている。

②の共同調理場の食数を増やすための改修だが、今まで食数を増やせない一番最初のネックが、熱風消毒保管庫とコンテナ置き場という物理的な広さの問題だった。これを解決しないと、食数を増やすことができないということで、一部の熱風消毒保管庫を調理場内から小学校の配膳室に移して、そこで保管をすることを検討している。

その後は、純粹に調理能力をどこまで上げられるか、どういう機器設備の更新が可能かということになるが、これは引き続き検討中だ。

③の中学校の施設改修については、耐震壁の状況や今後の大規模工事の状況を勘案しながら、改修の内容と時期を検討している。

次に、2ページの運営部会についてだが、こちらは、給食課を中心に中学校給食の具体的な運営について検討をしている。

まず、①が選択制と給食費の支払い方法ということで、選択制を前提として、選択の期間や前払いによる給食費の徴収などを検討している。期間については、中学校給食検討委員会でも、1カ月あるいは学期ごとが望ましいという意見だったが、今は1カ月ごとを中心に検討をしている。

これについては、学期ごととなると、1回に払う給食費の額が3カ月分、4カ月分となり、金額が大きくなることで払いにくくなって未納を招くこともあるのではないかとことや、小学校は1カ月ごとで集めていることなども考慮し検討している。

徴収については、前納を前提に検討している。他市では、領収書を添付してその都度申し込む例があるが、事務が煩雑になることから、1回申し込んだら自動継続のような形でできないかということを考えている。ただその場合、もし支払われなかったときはどういう形で、どこが給食をとめることができるかという課題もある。

この点についてもう少し研究して、前納方式と手間がかからない申し込み方法という2点を満たす制度づくりを研究していきたいと考えている。

②の小中別献立による給食については、方法をいろいろ検討しているが、2つの調理場それぞれで小学校用、中学校用の両方の給食をつくるのは効率が悪いので、1つの調理場を小学校用の調理場、もう一つを中学校用の調理場という形に最終的には位置づけたいと考えている。

規模的に考えると、北町調理場が小学校用、桜堤調理場が中学校用の調理場ということになるのではないかと考え、その方向で検討している。

そこでの課題としては、北町調理場で小学校分を調理するとなると、今、両調理場で調理している9校分、4,200食から4,300食の調理をしなければならないが、その食数をつくるのは難しいという点だ。なお、桜堤調理場については、現在1,800食を調理しているが、中学生2,000食分の調理は、可能な範囲だと考えている。

③の献立内容については、小学校と同じ質の給食をどう維持していくかということになる。まず一つは、武蔵野市の給食の特色としての、手作り調理とか、市内産野菜や安全な食材選定、和食を中心とした献立などを小学校同様取り入れることを考えている。また、その特色にあわせた、栄養所要量を満たす工夫や基準のありかたの精査を行っていききたいとも考えている。

④の調理食数をふやす方策については、小中別献立のところでも触れたが、北町調理場の提供食数が一番問題になってくる。

北町調理場は、300リットルの大釜でご飯を炊いているが、1釜約600食炊いていてそれが6基ある。この釜は最大650～700人分は炊けるので、4,000食ぐらいまでは対

応可能と見ている。ただ、あの釜を全部使ってしまうと、ほかのおかずをつくる釜の問題が出てくるが、それは他の中型の釜の更新等である程度カバーできると考えている。

北町調理場で4,000食をつくるとして、あと約300食、小学校1校分の給食をつくる施設がないということで、これは今回、非常に大きな提案になるが、できればその小学校1校分については、どこかの小学校で単独調理施設をつくりたいと、これを検討課題としたいと考えている。

最後に学校部会だが、この部会では、学校の先生を中心に、学校運営上の課題について、時程の問題や給食の配膳、また、選択制への影響など、さまざまな角度から意見をいただいている。まだ、先生方の中でも給食実施のイメージが定まらない部分があるが、これについては、試行を行うことにより、今後、問題点が見えてくると思っている。そこで、この部会では、来月の試行をした後に具体的な課題について詰めていきたいと考えている。

今は、むしろ試行をどう行っていくかということについて、その内容を確認しているのがこの部会の現状である。

なお、食育については、まだ本格的な検討には入っておらず。今後の課題となっている。

【委員長】 今の報告について、質問、意見があればお願いしたい。

【委員】 小学校で慣れているやり方で給食を行っていくのは問題ないと思うが、選択制には慣れていないので、申し込みを忘れたというようなトラブルなどが出ないか心配だ。

【事務局】 今考えているのは、最初に給食か弁当かを申し込んで、途中で変えたいというときに、例えば前月の何日までに変更を申し出るという形であれば、給食を申し込んだらずっと給食という方も多いと思うので、そういう形が一番自然で手間もかからないのではないかと考えている。

ただ、選択制で前払いで実施しているところは、お金を払って給食を選ぶという意味確認をして、それで給食を提供するという制度をとっているが、今考えている方法では、万一給食費が払われないときに、給食の提供を止めることができるかという点に課題がある。このあたりを、もう少し研究をしたいと思っている。

【委員】 今、小学校では長期欠席の場合、一定期間を超える場合の給食費は返還しているが、プリペードの場合、小学校と同じような対応がとれるのか。

【委員】 選択制については、1カ月を単位とするのか日が変わりで申し込めるのかということがあると思うが、小学校では、食材発注の関係で何日間かは返金できないようになっている。その辺は整合性を持たせなければいけないと思う。それと、一番心配してい

るのは、徴収集約をだれがするかということで、ここが一番難しいところだと思うが、どのように考えているのか。

【事務局】 徴収については、小学校では、学校を中心に行っていただいている。基本的には同じように考えていこうと思っているが、小学校は後払いになっているのに対し、中学校では前払いということで、細部については少し詰める必要がある。

生徒と保護者は小学校から中学校へと引き続いていくので、できるだけ同じような形になるように考えたいと思っている。ただ、制度的には、選択制や前払いという違いがあるので、工夫は必要だと思っている。

【委員】 そのとき食数の集約と、会計的な処理を考えなければならない。小学校の場合は、今嘱託職員がやっていて、金額は月定額なので機械的に行えるが、中学校の場合については、その都度集計をしたり、集計方法に違いが出るのではないかと思うがどうか。

【事務局】 まだ細部まで詰めていない部分があるが、小学校と同じように考えたいと思っている。小学校は後払いなので、最後で調整ができるが、これが先払いとなると、形としては払ってもらった後、還付のような形になる。

ただ、それは制度の問題なので、そこをうまく調整することができるかどうかを検討したい。今いただいた意見なども参考にしながら、混乱がない方法を考えていきたいと思っている。その中で、選択制ということで一番大きい部分は、意思を示すというところにあるので、そのあり方はしっかりとらえておかないといけないだろうと考えている。

【委員】 小学校で行っているシステムをそのまま中学校でやるということだが、それは中学校の実態にあわせていただきたいと思っている。例えば配膳室の鍵を誰が開けるかという問題を一つとっても、小学校では担任の先生が開けているようだが、小学校と中学校ではシステムが違い、生徒は教室を移動していて、自分の教室で授業を受けないことも多いので、中学校では担任が開けると無理がある。そういう違いに応じたところをよく見ていただいて、小学校のシステムをそのまま中学校へ入れないでほしいというお願いをしておきたい。

【委員長】 そういう意見も参考に、今後、検討をしていきたいと思う。

【委員】 保護者の意見としては、中学校の先生の負担ということも心配になる。また、授業時間への影響もある。配膳時間をとることにより、20分から30分は遅れるのではないか、それによる部活への影響はどうなのかということを心配している。

また、選択制によって弁当の子の配膳当番をどうするのかということも気になる。

【委員】 1カ月ごとに前払い方式で実施するということだが、弁当を選択した生徒が、例えばたまたまお母さんが病気になったときに、コンビニ弁当を持ってこさせるのかと

いう意見が恐らくは出ると思う。これは非常に難しい話だが、そういう意見が出る可能性があるということをお頭のなかに入れておいていただきたいと思う。

【委員】 資料の1ページに学校の耐震補強工事やその他の大規模改修工事のスケジュールとの整合とあるが、この施設部会には、学校関係者は入っていないので、学校の施設改修が、学校の知らないところで進んでいくことがないようにしてほしいと思う。別に施設部会に学校の代表を入れてほしいということではないが、例えば給食実施に伴う改修工事と、その他の改修工事の関係については、該当する学校に早めに予定を知らせていただき、予算に載せていく段階で、十分に学校の要望も取り入れて進めていただきたいと思う。

【事務局】 施設部会では教育企画課と、施設課が入って大規模工事等との整合については調整を行っている。

ただ、大規模工事は予算がかなりかさむので、夏に概算要求をして、この概算要求の結果が出ないと、学校にこういうことをやりますよというのはなかなか言いにくい状況にある。11月の初めには、概算要求の結果として当該校にはお知らせができると思う。

【委員】 給食に関連した施設改修で、今まで部屋として使っていたものが使えなくなることが出てきて、それまで機能していたものの代替をどこにつくるのかという問題が出てくると思う。そういうことを、学校と連携して予算を盛り込んでおいていただきたい。ぜひ各学校と十分に相談をして、検討をしていただきたい。

【事務局】 その点については、給食課と教育企画課、あるいは施設課とも連携をとって、十分な配慮しながら進めていきたいと思う。

【委員】 学校部会で食育の実施が課題となっている事項については、武蔵野市の和食を中心とした給食をこのまま実施するのであれば、実施がイコール食育だと思っていいと思う。献立が出て実際に食べる、あるいは弁当を持ってきている生徒であっても、周りに食べている生徒がいれば、わざわざ食育と構えなくても、身近なところで考えられるので、まず、学校給食を中学校でうまく機能させてから、その後、さらにまた踏み込んで考えればいいと思う。給食を実施することが本当に食育の一步だと思う。

【委員】 今、中学校では試行のためにいろいろ準備していて、事前指導をする学校もある。前向きにみんな取り組んでいて、小学校のやり方を少し聞いてみようという学校もあるようだ。

【委員】 給食の献立表を小学生の子どもが毎月持って来るが、裏にレシピが書いてあったりする。いつも同じ料理ばかりになりがちなときに、あのレシピによって「ああ鶏肉にもいろいろな使い方があるんだ」と勉強させられる。

【委員長】 栄養の所要量ということについてはどうか。

【委員】 栄養素のとり方は3対4対5という、朝が3、お昼が4、夜が5ということで、昼食が12分の4、だから昼は3分の1になる。

これは、献立によっては意外と大変なときがあるので、例えば5日間給食があるとするれば、5日間のトータルで全部賄っているというような、3日とか5日というスパンの中できちんと栄養素がとれているという方が献立は作成しやすいし、わけのわからない献立をつくらなくて済むと思う。その点では独自のやり方であっていいと思うが、基準値はきちんと満たすべきだというふうには思う。エネルギー量も、例えばすごく多いときと、ちょっと少ないようなときとあっていいと思う。病院食ではないので、いつも同じでということではなくてもいいと思う。

今日食べた食べ物は、今日の栄養になっているわけではないし、明日の栄養になっているわけでもない。食べたものに色をつけて排泄物を見るという実験があるが、例えば今日はピンクの色をつけて、明日は黄色をつける、あさっては緑色とすると、排便したときに最初にピンクが出て、次の日に黄色が出て、最後に緑が出るかというのと、実はそうではなくて結構混ざる。ですから、何か独自の方法でこういうふうに行っているというのがあれば一番いいし、それがなくても、こんなふうに行っているということであれば、それでいいと思う。もちろん学校給食法に照らし合わせてということは大前提になるが。

【委員】 武蔵野市の中学校給食は、後からスタートするので、先にやっているところのいろいろな問題も見ることができる。後からやるということは、できて当たり前という中での大変さがある一方、よりよくするチャンスも大きいと考える。

先ほどの報告では、ぎりぎりのところでどう実施していくかを検討している様子が伺えたが、無理をしないで余裕を持つような方法、例えば1校自校方式でやるとか、1校親子方式でやってみるというように、余裕を持ってやることを大切にしたらいいと思う。実施されればずっと毎日続くので、無理な計画ではいけないと思う。早く実施することは本当に大事なことだが、ぎりぎりでやらないように考えていくことの方がより大切ではないかと、私は思う。

選択制については、前例があるので、それらを参考にして検討すればそう難しい問題ではないと思う。プリペードというのは、先に払っていることによって意思を示しているので、一定のルールに基づいて対応していくこと、それも社会の教育だと思うし、そういうことを保護者にもわかってもらわないといけないと思う。

それと、中学校の先生方は、今は不安な気持ちがいっぱいあると思う。しかし、始まってみれば非常に日常的なことになる。小学校から見れば毎日行っていることです。そ

れに先生というのは、プラスの方向に進めるのが得意ですから。毎日子供に対して、もっとよくするにはどうしたらいいかということのを常に考えているので、実際に始まればそんなに心配はないと思う。ただ、先ほどあったように、密な連携と役割分担がしっかりできていることが大事なので、その点はお願いしたいと思う。

【委員】 中学校で給食を実施して2,000食増えるとなると、私も回転釜では厳しいのかなと思う。献立はやはりパン食中心になるかという気もする。そこで、献立に幅をもってある程度余裕を持たせた方がいいのではないかと感じた。

【委員】 教員は、3、4年武蔵野で勤めると、給食をやってきたことを忘れてしまう。1、2年目ぐらいの先生だとやってきたから大丈夫だという。そういう声もある。

【委員】 そんなに大きな問題とか、教員からこんなことを何でやるんだという声は、私は出ないと思う。ただ少しでもそういう声が出ないような条件整備をしていかなければいけない。

私のところでは、ほぼ生徒の9割が試行で2日間とも給食を希望している。ただ今回は初めてのことで、試行ということもあって、その珍しさもあって申し込んでいるところもあるかと思うが、最近実施した他市の状況と比べると、ほかの市よりも希望する生徒の割合は多いのではないかと思う。

【委員】 今、中学校で牛乳給食を実施しているが、今後は選択制となると弁当を持ってくる生徒に対しては、牛乳はどうなるのか。普通に給食を食べる生徒に対しては、そのときの飲み物、これは小学校でも牛乳ではなくて麦茶を出したりしているが、それ等は今後の課題か。

【事務局】 それについては、他市の状況も研究したいが、今は完全給食か弁当かを選択という形を考えている。

【委員】 弁当を選択すると牛乳もないということか。

【委員】 飲み物だけは、そのときに応じて麦茶のパックを出すということも考えられる。今後の課題だと思う。

【事務局】 いろいろな可能性は考えられると思う。そういう意見を出していただき、今後の課題として検討したい。

それと今、話が幾つか出たので状況を報告すると、試行の申し込みについては、今週、学校で集約してもらっているところだが、現在、3校から報告が来ている。いずれの学校もおよそ9割の生徒が給食を希望している。

また、回転釜については、説明に不足があり申し訳ない。大きな300リットルの釜が6基と200リットルが3基、それとガス回転釜が4基ある中で、300リットルの釜はも

う増やせないだろうと思っているが、ほかの部分について、ガス回転釜を蒸気釜にかえることなどを検討している。そういうことを行って食数の向上を図ろうと考えている。決してこの中で無理やり背伸びをしようとは考えておらず、やはり余裕は必要だと思っている。

【委員】 釜については、まだ増やせる可能性はあるということか。

【事務局】 釜の大きさや種類を変えることを中心に検討している。その中で、増やせるかどうかを検討しているが、レイアウトの問題があり、増やすのは難しいと感じている。

【委員】 運営部会になるのか学校部会になるのかちょっとわからないが、中学校給食を実施した他の自治体の状況などを聞くと、かなり残菜が出るということを知っている。その対策として何らかの、例えば堆肥化などの環境問題も検討事項に上げたかどうかと思う。

【委員】 作業部会で、弁当と給食と両方持って来ていいかという話もある。これは生活指導面ではどちらかという嫌がる例だが、ただ中学校給食検討委員会で去年ずっと話し合ってきた中では、そういうことも認めてもいいのではという意見もあった。

【委員】 特に男子生徒と女子生徒では違いがある。

【委員】 ほかの区市町村では、給食の実施校の方が多いわけで、そこでは給食で全てまかなわれている。

【委員】 可能ならば両方ありということも考えてもいいと思う。育ち盛りで、給食がありながら、お腹がすいたらかわいそうだと思う。

【委員】 今回、試行を行って、その結果をみてさらに検討していくということだと思うが、いろいろな要望や意向があると思う。もしかして、結果によっては給食実施がなくなるという可能性はあるのか。

【事務局】 給食を実施する方向で、そのための課題を整理するために試行を行うので、試行によって給食実施の是非を諮ることは考えていない。

【委員】 最近、自分勝手な親が多くて、学校への苦情も結構多いと新聞などで報道されている。中学校給食についても、保護者から学校に要望が出てくる予感がする。それを考えると、選択制については、先生方の余計な仕事にならないかと心配する。選択制と全員が給食をとる方法と両方あるかと思うがどうか。

【事務局】 今まで果たしてきた弁当の意義も考え、保護者が持たせたいとか、子供が持っていきたいという気持ちも大切にしていきたいことと、アレルギーの関係もあるので、選択制を前提として考えていきたい。ただ、それに伴う負担ということについては、どう軽減できるのか検討していきたいと思う。

【委員】 選択制については、議会等でもいろいろ論議があって、選択制にするべきだという意見は大きいと思う。今までの弁当のよさを排除するような方向ではまずいという議論もされてきているので、完全に選択制を排除するというのは、なかなか難しいと思う。

それともう一点、あと1校の単独校をつくるという部分については、検証をしていく中ではそういう案も出てくるかもしれないが、これは財政負担も出てくるし、人の問題もあるので、よく市役所内部で連携をとって検討いただきたいと思う。

【事務局】 いろいろ検討を重ねる中で、どうしても両調理場での食数の向上を図ってもまだ足りなくなる。これに対して、どんな方法がとれるか、ほかに解決策があるかどうかも含めて検討していきたいと思う。

【委員】 細かいことになるが、給食の実施に際しては、配膳室の鍵の開け閉めなどの管理は配膳員にお願いしたいと同時に、小学校では高学年の児童が、自分のクラスの食器や食缶をワゴンに移しかえることもやっていると聞く。私はそれでいいのかと思う。例えば熱い汁物が入っている食缶を、もし、こぼしたときにやけどの心配もある。また、誤って全部こぼしてしまう。そうするとそのクラスはそれを食べられないかもしれない。それが自分のせいだということになると、子どもたちはかなり意識すると思う。そういうメンタルな部分を含めて、配膳員の仕事としてやっていただけないかと思う。

また、生徒会の委員会活動を昼休みにやっているが、今は、弁当を持って集まってやっている。それが今度は給食を持って集まることになる。その子たちの食器の片づけをどうするかということも考えなければならないと思う。配膳員がそこに行って受け取ってくれるのが本当は一番いいと思うが、あまり負担をかけてもいけないと思うので。そういうことを、どこまで配膳員の仕事の中に盛り込んでいただけるかということを検討してほしいと思う。

【委員長】 これらについては、部会の中での検討はどうなっているのか。

【委員】 これからのことということで、まだ検討はされていない。

【委員長】 細部については、今後、部会で検討いただきたい。

【委員】 給食を実施している他の市町村は、この辺の対応はされているはずなので、例えば生徒会委員会の対応などは、ほかの周りの市町村に中学校の現状を聞きながら検討してはどうかと思う。

【事務局】 配膳の課題は中学校だけの話ではないと思っている。いい機会なので、小学校も含めてどういうあり方がいいのか、どう円滑に実施していけるかということについて、今までこうやってきたからこうでなければならないという発想ではなく、検討して

いきたいと思う。また、そういうことも含めて試行で見ていきたいし、他市の例も参考にしたいと思う。

ただ、そこには人員の問題とか仕事の配分の問題などがあるので、効率的な実施というのがどういうことなのか。先生にも負担をかけない、けどどこまでやると、人数が必要になり人件費の問題が出るとか、いろいろあると思う。そこはしっかりと押さえながら検討していきたいと思う。

【委員長】 この件については、学校作業部会の方でよく検討いただきたいと思う。

今日議論いただいた意見を参考に、また部会で検討させていただき、次回の委員会には、ある程度まとめた案を出していきたいと思っている。

なお、次回日程については1月に開催することとし、日程については改めて調整することになった。

午後 5時00分閉会